

# 野党による 政権交代を

「桜を見る会」・「学術会議人事」は「赤旗」のスクープ報道から始まりました。

## 任命拒否 自民・船田氏が批判

自民党の船田元・衆議院議員は3日、日本学術会議が推薦した会員を普義博首相が任命拒否した問題について、自身のフェイスブックで、「政府に反対する学者を意図的に排除するのでなく、学術会議内の議論の淘汰(とうた)と世論形成過程に信頼を置く精神的な余裕を持つべき」と投稿しました。同問題に対して自民党内からも批判が出ています。

船田氏は1983年、日本学術会議法改定の審議をした

経験から、政府側は学会の方から推薦していただいた者は拒否しない「形式的な任命制」など「口を揃えておいて、この答弁を『受け継いできたはず』と明記しています。さらに(首相の任命拒否は)明らかに解釈の『変更』で、事前に国会や与党に周知すべき」だが何も知らせず、「結果として閣内でのような形になってしまったのは残念」と述べ、政府の方針に「反対する」ということになると、抑止効果を狙ったものと思えない」と批判しています。

## 「地方出身」「たたき上げ」強調するが...

普氏は10年前に既に「社会は自助、共助、公助のバランスが大切です。われわれは、まず『自助』の精神を重んじます」と強調。国の役割を軍事や外交などに特化する「小さな

普氏があるべき社会像として掲げるのが「自助、共助、公助」です。まずは自助で対処し、それでもダメなら家族や地域で支え合い、どうにも立ち行かなくなった生活保護など「公助」で面倒を見ようという考えです。

「生活保護は生きるか死ぬかという状況の人がもらうべきもの」(片山さつき自民党参院議員)という言葉が示すように、「自助、共助、公助」といっても、死の間際までいかなければ「公助」で救う必要はないという思想です。

普氏は10年前に既に「社会は自助、共助、公助のバランスが大切です。われわれは、まず『自助』の精神を重んじます」と強調。国の役割を軍事や外交などに特化する「小さな

しんぶん「赤旗」にはマンガ・料理レシピ・スポーツ芸能も載っています。もちろんTVや他紙にないすごい分析やスクープ記事も...



普氏が売り文句として繰り返す「雪深い秋田の農家の長男」「政治家として『地盤』『看板(知名度)』かば(政治資金)なしのスタート。地方出身を強調することで地方目線を、たたき上げを強調することで庶民目線をアピールしますが...」

■弱者に冷たい

普氏があるべき社会像として掲げるのが「自助、共助、公助」です。まずは自助で対処し、それでもダメなら家族や地域で支え合い、どうにも立ち行かなくなった生活保護など「公助」で面倒を見ようという考えです。

「地方を大事に」といいながら、安倍政権の官房長官として、沖縄県には米軍新基地を、選挙区の横浜市にはカシノを、地元住民の民意を踏みにじって押し付けようとしてきたのが普首相です。

■地方切り捨て

「地方を大事に」といいながら、安倍政権の官房長官として、沖縄県には米軍新基地を、選挙区の横浜市にはカシノを、地元住民の民意を踏みにじって押し付けようとしてきたのが普首相です。

# コロナ拡大 医療体制は瀬戸際

新型コロナウイルス対策にあたる政府の分科会は、強い対策を政府に求める提言を出しました(25日)。分科会メンバーで東邦大学医学部教授の館田一博さん(日本感染症学会理事長)に聞きました。

宇野龍彦記者



政府分科会メンバー  
日本感染症学会理事長  
**館田 一博さん**

今回の「第3波」では、感染者も重症者も第2波より急激に増えて過去最多となり、危機的状況が近づいていると感じています。

私も参加する厚生労働省のアドバイザリーボード(専門家の助言組織)は11月24日、「こ

のままの状況が続けば、通常の医療では助けられる命が助けられなくなる」と警告しました。

病院・高齢者施設で重点的にPCR検査を行うこと、飲食店などへの時短要請、「GO TO」

4面につづく

共産党 各地で支援要求 5面  
治療の今・第3波の備え 14面  
大阪すでに病床ひっ迫 35面

希望伝える 「赤旗」が

いま「赤旗」がおもしろい

お申し込みは黒田みちまで  
(090-9987-7909)

**日本共産党**